

第3回 釧路川堤防技術検討委員会

釧路開発建設部は、大雨に強い釧路川の堤防整備手法を検討するため、有識者からなる「釧路川堤防技術検討委員会」を平成30年6月に設置しています。今回の委員会では、河道変遷に着目した堤防の低い箇所が発生要因分析の今後の堤防管理への活用について指摘がありました。また、釧路川では堤防の浸透破壊については、河川水位だけでなく降雨の影響を十分考慮した検討をすべきとの指摘があり、現地試験に向けた降雨の堤体への浸透に着目した現地計測等の内容について検討が行われました。

本委員会では、近年大雨による堤防の法面すべりによる被災が発生している釧路川を対象として、雨水や洪水に対して堤防の信頼性を向上させる対策案の検討を行います。専門的知見を有する有識者による検討を通じて今年度中を目途に検討結果を取りまとめる予定です。

第3回 釧路川堤防技術検討委員会の議事要旨

■日時：平成30年10月11日（木曜日）14:30～18:00

■場所：釧路川現地（標茶町ルラン付近）、
標茶地区河川防災ステーション会議室

■出席者：委員長 福岡 捷二（中央大学研究開発機構 教授）
委員 川尻 峻三（北見工業大学 助教）
" 早川 博（北見工業大学 教授）
" 林 宏親（寒地土木研究所寒地地盤チーム 総括主任研究員）
" 前田 健一（名古屋工業大学 教授）
" 森 啓年（山口大学 准教授）
" 矢部 浩規（寒地土木研究所寒地河川チーム 上席研究員）

■議事要旨

前回の委員会意見をもとに検討を進めてきた事項について議論が行われました。

（主な意見等）

堤防天端の低い箇所では、小さな越流水深であっても決壊の危険性が高くなる。このため、本委員会で整理した旧河道の位置に着目した堤防天端の低い箇所の発生要因分析結果等を活用し、堤防天端高を管理していくことの重要性が指摘された。

堤防の現地試験について、基礎地盤への浸透を抑制するために敷設した遮水シートと試験堤体盛土との境界部が弱部とならないよう処理することについて指摘があったほか、試験実施に当たっては、外水位と降雨が堤体内に流入した時の浸潤線変化を把握するなど、試験中の土壌水分の状況に応じて観測方法や観測体制を柔軟に対応しながら実験を進めることとされました。



現地確認の様子



委員会の様子